

建築学生ワークショップ法隆寺 2026

全国の大学生たちが小さな建築を、法隆寺境内に10体実現。



2026年度参加学生

法隆寺は 607 年、聖徳太子自らが住まわれた斑鳩宮に隣接したこの地に創建された、太子ゆかりの古代寺院です。金堂、五重塔を中心とする西院伽藍と、夢殿を中心とする東院伽藍に分けられ、境内の広さは約 18 万 7 千㎡。西院伽藍は現存する世界最古の木造建築物群で 1993 年に「法隆寺地域の仏教建造物」として、ユネスコの「世界遺産」に登録され、新たな歴史を刻み当時と同じ姿を現代に伝えています。伝統技術を含めた次の時代の建築を担う学生らが 2026 年、古都・奈良 法隆寺に合宿にて建築を実現します。

参加者 建築および環境デザイン等の分野を学ぶ学生および院生

参加校 (2026 年度)

東京大学 関東学院大学 日本大学 昭和女子大学 日本女子大学 奈良女子大学 近畿大学 畿央大学 立命館大学 九州大学 セント・オラフ大学 千葉工業大学 京都精華大学 国際教養大学 九州産業大学 京都建築大学 校 法政大学 横浜国立大学 摂南大学 山口大学 芝浦工業大学 香川大学

※順不同

2026年度参加予定講師



石川勝 (万博会場運営プロデューサー) 太田伸之 (松屋 顧問) 建昌哲 (聖徳太子美術館館長、京都芸術センター館長) 南條史生 (美術館 顧問) 中島さち子 (建築家 数研研 1STEAM 代表) 堀木エリ子 (京都美術工芸大学 客員教授) 福島良典 (毎日新聞社 主筆) 五十嵐太郎 (東北大学 教授)

倉方俊輔 (大阪公立大学 教授) 稲山正弘 (東京大学 名誉教授) 腰原幹雄 (東京大学 教授) 櫻井正幸 (旭ビルウォール 取締役会長) 佐藤淳 (東京大学 教授) 陶器浩一 (滋賀県立大学 教授) 青木謙治 (東京大学 教授) 芦澤竜一 (滋賀県立大学 教授)

長田直之 (奈良女子大学 教授) 永山祐子 (永山祐子建築設計 主宰) 平田晃久 (京都大学 教授) 平沼孝啓 (平沼孝啓建築研究所 主宰) 藤本壮介 (藤本壮介建築設計事務所 主宰) 安原幹 (東京大学 准教授) 山崎亮 (関西学院大学 教授) 吉村靖孝 (早稲田大学 教授)

公開プレゼンテーション

全国から公募にて募りました、建築や芸術、環境デザインを学ぶ国内外の参加学生ら約60名が、合宿（期間：9月10日から16日）にて京都周辺に滞在し、古代からの歴史文脈に基づいた小さな建築を10体、9月15日（日）醍醐寺境内に実現します。また9時20分より、霊宝館（予定）にて開催される公開プレゼンテーションでは、参加学生たちの提案意図や制作の創意工夫を発表し、国内外で活躍する建築家をはじめとした全国の大学で教鞭を執られる先生らと技術者による講評会を開催します。

大学や専攻、年齢も異なり次世代を担う参加学生たちが、歴史的に貴重な日本の聖地の環境に触発され、6月より現地のリサーチを重ねた経験に基づき、合宿による地域滞在型での制作ワークショップにより、柔軟な発想により制作した作品と発表、そして厳しくも温かい講評者の貴重なコメントを合わせてお聴きください。古の教えに学びながら提案し、豊かな発想力のもと実現した小さな建築空間に存在する、新たな価値の発見に迫ります。



左から五重塔（飛鳥時代）・大講堂（平安時代）・金堂（飛鳥時代）



2010 奈良・平城宮跡



2011 滋賀・竹生島



2015 和歌山・高野山



2016 奈良・明日香村



2017 滋賀・比叡山



2018 三重・伊勢



2019 島根・出雲



2020 奈良・東大寺



2021 東京・明治神宮



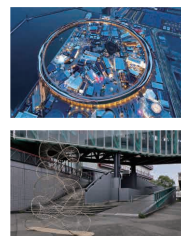
2022 広島・厳島神社



2023 京都・仁和寺



2024 京都・醍醐寺



2025 大阪・EXPO

テーマ

“今、建築の、原初の、聖地から”

法隆寺

創建 607 年 古都の未来のために建築ができること



西院伽藍全景



金堂（飛鳥時代）



回廊（飛鳥時代）



夢殿（奈良時代）



大講堂（平安時代）



絵殿・舎利殿（鎌倉時代）



聖霊院（鎌倉時代）

2026 年夏、現代に受け継がれてきた、わが国を代表する法隆寺にて、小さな建築空間を実現する建築学生ワークショップを開催します。法隆寺は、法隆寺は 607 年、聖徳太子自らが住まれた斑鳩宮に隣接したこの地に創建された、太子ゆかりの古代寺院です。金堂、五重塔を中心とする西院伽藍と、夢殿を中心とする東院伽藍に分けられ、境内の広さは約 18 万 7 千㎡。西院伽藍は現存する世界最古の木造建築物群で 1993 年に「法隆寺地域の仏教建造物」として、ユネスコの「世界遺産」に登録され、新たな歴史を刻み当時と同じ姿を現代に伝えています。

「神聖な場所を受け継ぐワークショップ」として開催するこの取り組みは 2001 年から始まり、過去に山添村（奈良県）・天川村（奈良県）・丹後半島（京都府）・沖島（滋賀県）などの関西近郊の各地で行われ、それぞれの過疎化した地域を対象に関西の学生らが提案し、開催地の支援を得ながら、有意義な成果を残してきました。2010 年からは、今までの取り組みの志向を変え、開催地の方たちと広く、一般社会にも投げかけてゆけるように、共同での開催となることを目指し、平城宮跡や竹生島、高野山金剛峰寺や明日香村キトラ古墳、比叡山延暦寺、伊勢神宮、出雲大社、東大寺、明治神宮、厳島神社、そして京都・仁和寺、醍醐寺、大阪・関西万博会場での開催など、日本の“聖地”とよばれる場所を開催地としています。公募により全国から集まった参加学生たちが、これらの特有な場所がもつ神秘的な力に対してどのようにリサーチし、真剣に考え向き合うのかを検討し、空間体験のできる規模（原寸大の建築）を制作し、建築のプロセス全体を体験する機会として開催しています。

本開催は、公募した参加学生を 5 月 15 日に選出し、10 の班に分かれて、6 月 6 日（土）に全国から奈良に集まり、現地調査を開始します。境内では、開催テーマとしての位置づけにもあるこの場所が持つ特有の力や意味を身体で感じ、その中から各々の班で発想の原点を見出していきます。さらに周辺地域の街歩きを繰り返し、いま現代に生き、奈良で学んでいることへの意味をみずから問うていきます。

7 月 18 日（土）の提案作品講評会では、国内外にて活躍をされる建築家・構造家の先生方を中心とした講評者の指導のもと、日本における貴重で特殊な環境における場所性に根づいた実作品をつくりあげる意味を問い直し、7 月 19 日（日）の実施制作の打合せでは、地元の建築士や施工者、大工や技師、職人の方々に伝統的な工法を伝えていただく機会を得ながら、日本を代表する組織設計事務所の方々や多くのゼネコンに所属される技術者の皆様による実技指導をいただきます。

9 月 13 日（日）、この参加学生たちが制作した小さな建築が 10 体、法隆寺境内に実現します。当日は、これらのプロセスを経て創出した建築空間を 1 日だけ、どなたでも体験していただけます。そして、建築・美術両分野を代表する評論家をはじめ、第一線で活躍をされている建築家や美術家の方々、世界の建築構造研究を担い教鞭を執られているストラクチャー・エンジニアによる講評者にお集まりいただき、公開プレゼンテーションを開催いたします。

開催には、府内をはじめとした奈良周辺の多くの方たちや、これまでの開催地の関係者の皆さま、そして全国から集まる建築に関わる関係者や一般参加者に向けた発表を行います。建築のプロセスに胸を躍らせる 3 ヶ月。参加学生たちがさまざまな歴史をもつ奈良の伝統を学び、この文化に位置づけた解釈を生み、法隆寺に存在し続ける建築様式に連なり、訪れた人たちの心を落ち着かせ、祈りを捧げるような空間体験と提案の発表に、どうぞご期待ください。

建築学生ワークショップとは？



平城宮跡



竹生島



高野山



明日香村



比叡山



伊勢神宮



出雲大社



東大寺



明治神宮

建築ワークショップとは、建築や環境デザイン等の分野を専攻する学生を対象にした、普段の大学生活では体験できないスケールで作品制作を行う、地域滞在型のワークショップです。国内外にて活躍中の建築家を中心とした講師陣の指導のもと、開催地の歴史や地域環境を研究しながら、他大学生との交流の中でその場所における社会的な作品をつくりあげる経験をするを目的としています。

2010 年、一般社会にも投げかけてゆけるような地元の方たちと共同開催での参加型の取り組みとなっていくことを目指し、「平城遷都 1300 年祭」の事業として、世界文化遺産（考古遺跡としては日本初）にも指定されている奈良・平城宮跡で開催しました。続く 2011 年度は滋賀・琵琶湖に浮かぶ「神の棲む島」竹生島（名勝史跡）にて、宝厳寺と都久夫須麻神社と共に開催。無人島とされている聖地に、地元周辺の方たちと汽船で通う取り組みを行いました。

2015 年は、開創法会 1200 年となる 100 年に 1 度の年に、高野山・金剛峯寺（世界文化遺産）での開催をし、2016 年には、昭和 58 年に北壁の玄武図が発見されてから 30 年を経て公開される直前のキトラ古墳と国営飛鳥歴史公園の開演イベントとして、キトラ古墳の麓に小さな建築を 8 体実現。2017 年には、国宝根本中堂「平成の大改修」始まりの年に、「古都京都の文化財」の一環としてユネスコの世界遺産に登録された、天台宗総本山・比叡山延暦寺にて開催。2018 年は、天皇陛下生前退位をされる前年、満了する平成最後の夏に、伊勢にて開催。2019 年は、「平成の大遷宮」完遂の年に、出雲大社にて開催。2020 年は国内初のプリツカー賞授賞式の聖地に於いて、東大寺にて開催いたしました。2021 年は鎮座百年を迎えた明治神宮にて開催（新型コロナ感染拡大の影響で合宿期間を 2022 年 3 月に延期）し、2022 年は大鳥居の「令和の大改修」の年に厳島神社にて開催。2023 年は京都・仁和寺にて、2024 年は京都・醍醐寺にて開催し、2025 年は新たな聖地となる大阪・関西万博の年に開催しました。

このような日本における貴重でかけがえのない聖地における環境において、地元の建築士や施工者、大工や技師、職人の方々に古典的な工法を伝えていただきながら、日本を代表する建築エンジニアリング企業・日本を代表する組織設計事務所の方々や多くの施工会社の皆様、そして建築エンジニアリング企業の方たちによる技術者合宿指導により実制作を行い、地元・地域の多くの方たちによる協力のもと、原寸の空間体験ができる小さな建築物の実現と、一般者を招いた公開プレゼンテーションを行う等、これまでになかった試みを実施する『全国の大学生を中心とした合宿による地域滞在型の建築ワークショップ』です。



厳島神社



仁和寺



醍醐寺



EXPO

開催目的



公開プレゼンテーションの様子



作業の様子



地元高校生 × 全国大学生交流会



実施制作打合せの様子



提案作品講評会の様子



各班エスキースの様子

1. 学生のための発表の場をつくる

学内での研究活動が主体となっている学生にとって、一般市民に開かれた公開プレゼンテーションを行うこと自体が非常に貴重な体験となります。また、現在建築界で活躍する建築家を多数ゲスト講師に迎えることで、質の高い講評を参加者は受けることができます。また、ワークショップ終了後の会場での展示や、会期報告としてホームページや冊子の作成を行い、ワークショップの効果がさらに継続されるような仕組みをつくりま

2. 教育・研究活動の新たなモデルケースをつくる

海外での教育経験のある講師を招聘する等、国際的な観点から建築や環境に対する教育活動を行うワークショップとして、国内では他に類を見ない貴重な教育の場を設けます。また、行政や教育機関の連携事業として開催することで、国内外から注目される教育・研究活動として、質の高いワークショップをつくることを目指します。

3. 地球環境に対する若い世代の意識を育む

現在、近畿の各地方には、世界に誇る貴重な文化遺産を有する京都や奈良、琵琶湖や紀伊半島の雄大な自然など、豊かな環境が数多く残っています。しかしながら、近年の社会経済活動は環境への負荷を増大させ、歴史的に価値の高い環境をも脅かすまでに至っています。このワークショップでは一人一人がこうした地域環境の特殊性、有限性を深く認識し、今後の建築活動において環境への配慮を高めていくと同時に、地球環境の保全に貢献する人材を育てていくことをねらいとしています。次世代を担う学生たちが、具体的な経験を通して環境に対する意識を育むことは、環境と建築が共存できる未来へと、着実につながるものと考えます。

4. 地域との継続的な交流をはかる

歴史、文化、自然が一体となつて残る地域の特色を生かしたプログラムを主軸に、特殊な地域環境や、住民との交流によって生み出される制作体験を目的としています。各地域にはそれぞれの土地で積み重ねてきた独自の歴史や文化、風土があり、自然素材を上手く活用してきた歴史があります。短期間のイベントであればそれらを深く知ることはできませんが、数ヶ月にわたる継続的な活動を前提として取り組むことで、より具体的な提案や制作によって、地域に還元していくことができると考えています。



現地説明会の様子



コンセプト検討



計画地案内

開催概要

開催テーマ	“今、建築の、原初の、聖地から” 創建607年 古都の未来のために建築ができること
開催希望場所	法隆寺境内（奈良県 生駒郡 斑鳩町）

予定スケジュール 2026 年度（令和 8 年）

2020 年 10 月 30 日（金）事業計画（草案）決定
2022 年 03 月 28 日（月）座談会の開催
2025 年 09 月 14 日（日）参加者募集開始（web 公開）・募集パンフレット全国配布
2026 年 01 月 05 日（月）プレスリリース配信（雑誌各社への広報）
05 月 07 日（木）参加説明会開催（東京大学）稲山正弘
05 月 14 日（木）参加説明会開催（京都大学）腰原幹雄
05 月 15 日（金）23:59 必着 参加者募集締切
06 月 06 日（土）現地説明会・調査
06 月 27 日（土）午後予定 各班エスキース（東京会場）（大阪会場）於
07 月 18 日（土）～18 日（日）提案作品講評会と実施制作打合せ（1泊2日）
07 月 18 日（土）提案作品講評会
07 月 19 日（日）実施制作打合せ
07 月 20 日（月）～09 月 07 日（月）各グループ課題の制作
09 月 08 日（火）～14 日（月）合宿にて原寸制作ファイナル（6泊7日）
09 月 08 日（火）現地集合・資材搬入・制作段取り（1日間）
09 月 09 日（水）～12 日（土）原寸模型制作（4日間）
09 月 13 日（日）公開プレゼンテーション（1日間）
09 月 14 日（月）清掃・解散（1日間）

制作内容	“唯一無二の環境を守るために、あなたの提案を実現化してください” フォーリーの原寸模型を地域産材（自然素材 / 木材、和紙、土、石など）の材料で制作
------	---

Architectural Workshop HORYUJI 2026

予定表

写真は 2025 年度開催の様子

2022年	3月28日(月)	座談会
2026年	4月7日(火)	アドバイザー会議
	5月7日(木)	参加説明会開催(東京大学)
	5月14日(木)	参加説明会開催(京都大学)
	6月6日(土)	現地説明会・調査
	6月27日(土)	各班エスキース(東京会場・大阪会場)
	7月18日(土)	提案作品講評会
	7月19日(日)	実施制作打合せ
	9月8日(火)～14日(月)	現地集合・資材搬入・制作段取り 合宿にて原寸制作(6泊7日)
	9月8日(水)	地元高校生 × 全国大学生 交流会
	9月13日(日)	公開プレゼンテーション
	9月14日(月)	撤去・清掃・解散



参加対象者 建築および環境デザイン等の分野を学ぶ学生および院生
参加人数 60 人 (大学院生 1 人 + 参加学生 4 ~ 6 人) × 10 班 計 55 名 (上限) + 運営サポーター 5 名 (上限)
学生参加費用 実費 (宿泊費、保険代、資料代等 約 ¥ 50,000 事前徴収制)
※ 現地までの交通費は各自別途負担となります。
※ このワークショップは、ご賛同をいただいている企業・財団、ならびに開催地の有志の方々のご協力と、学生の参加費により運営をしています。

参加講師 (予定) ※日本を代表する講評者・総勢 24 名による講評

日本の文化を世界へ率いる方々や、建築・美術 両分野を代表する評論家をはじめ、第一線で活躍をされている建築家や都市計画家、アートディレクターや、構造研究を担い教鞭を執られているストラクチャー・エンジニアによる講評。また大学で教鞭を執られ、日本を代表されるプロフェッサー・アーキテクト、コミュニティデザイナー等にご講評いただきます。

石川 勝 (プランナー 万博会場運営プロデューサー)	佐藤 淳 (構造家 東京大学 教授)
太田 伸之 (マーチャンダイジングコンサルタント 松屋 顧問)	陶器 浩一 (建築家 滋賀県立大学 教授)
建畠 哲 (美術評論家 草間彌生美術館長、京都芸術センター館長)	青木 謙治 (研究者 東京大学 教授)
南條 史生 (キュレーター 美術館 顧問)	芦澤 竜一 (建築家 滋賀県立大学 教授)
中島さち子 (音楽家 数学研究者 STEAM 教育家)	長田 直之 (建築家 奈良女子大学 教授)
堀木エリ子 (和紙デザイナー 京都美術工芸大学 客員教授)	永山 祐子 (建築家 永山祐子建築設計 主宰)
福島 良典 (ジャーナリスト 毎日新聞社 主筆)	平田 晃久 (建築家 京都大学 教授)
五十嵐太郎 (建築史・建築批評家 東北大学 教授)	平沼 孝啓 (建築家 平沼孝啓建築研究所 主宰)
倉方 俊輔 (建築史家 大阪公立大学 教授)	藤本 壮介 (建築家 藤本壮介建築設計事務所 主宰)
稲山 正弘 (構造家 東京大学 名誉教授)	安原 幹 (建築家 東京大学 准教授)
腰原 幹雄 (構造家 東京大学 教授)	山崎 亮 (コミュニティデザイナー 関西学院大学 教授)
櫻井 正幸 (旭ビルウォール 取締役会長)	吉村 靖孝 (建築家 早稲田大学 教授)

主 催	特定非営利活動法人アートアンドアーキテクトフェスタ
特 別	法隆寺
特別協賛	旭ビルウォール 住友林業 吉野石膏 LIXIL
地域連携協賛	南都銀行 やまだ屋
特別連携協賛	大林組 五洋建設 清水建設 大成建設 竹中工務店 戸田建設 西松建設 前田建設
連携協賛	全国寺社観光協会 ケイミュー 日本ノボパン工業
事業連携協賛	浅沼組 梓設計 鴻池組 コーナン建設 サンユー建設 三和建設 東畑建築事務所 藤木工務店 村本建設
協 賛	久米設計 佐藤総合計画 大建設 日本設計 安井建築設計事務所 山下設計
連携協力	東京大学 京都大学
後 援	文部科学省 観光庁 朝日新聞社 産経新聞社 日本経済新聞社 毎日新聞社 読売新聞社 奈良県 奈良県教育委員会 日本建築学会 日本建築士会連合会 日本建築士事務所協会 日本建築家協会 全国建設業協会 日本建築協会 日本建築材料協会 日本建築家教会近畿支部奈良地域会 奈良県建築士会 近畿建築士会協議会 奈良県建築士事務所協会 奈良県建設業協会 インパクト